

令和6年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ふりかえりシートを毎回授業ごとに書かせることで、授業の反省・次回への見通しを持たせることができた。
- ・1年次または2年次で学習したことを活かして絵を描こうとしている。
- ・2、3年生には授業中に一切喋らない時間(20分)を設けることで、集中して作業に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・授業中に忘れ物を取りに行かせないために、授業が始まる前に本日の授業に必要なものを生徒に呼びかける必要がある。
- ・制作のスピードが速い生徒と遅い生徒の差が大きくなってしまったため、時間配分や毎授業時に目標や達成すべきことを提示する必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

学習効果測定未実施のため、授業の様子や小テスト、定期テスト等の結果をもとに、分析・授業改善を行う。

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・鉛筆を用いて濃淡をつける方法を用いて絵を模写することができている。 ・色彩や用具の使い方の知識は身についてきている。	・見る人に何を伝えたいのかをわかりやすいように、自分の発想を作品に表現しようとしている。 ・授業で学習したことを生かして制作に取り組んでいる生徒が多い。	・制作に対する意欲が高い。 ・絵の具を使う授業の時は声かけにより手元に集中できるが、片付けの時に集中力が切れ私語が増えるため、片付け作業が遅くなる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・1年次で学習したことを活かして制作しようとしている。 ・制作は好きだが、知識分野のテストが苦手な生徒が多い。	・作業グループ内での積極的な意見の交換ができ、自発的に鑑賞することができている。 ・他人の作品の良いところや工夫した点を見つけていることができる。	・下書きが思いつかず時間をかけすぎてしまう生徒が少数いた。 ・うまくできたところや、改善したい部分を振り返りシートに記録できている

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・1年次2年次で学んだ技法を応用して制作している。 ・配色や表現技法などのレパートリーについて学ぶことができた。	・表現したいテーマに合わせ、技法をよく吟味して作品作りに活かすことができた。 ・西洋美術の変遷について復習し再認識することができた。	・楽しみながら制作に取り組んでいる印象を受けた。 ・制作を通しての反省の記録を書くことが習慣として根付いている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・筆や用具の使い方、鉛筆を用いた濃淡の付け方など美術の基礎をさらに定着させていく。 ・単元同士につながりを持たせ、繰り返し復習させるような活動を取り入れる。	・授業内での声かけを増やし、生徒が豊かな発想をできるようにサポートする。 ・鑑賞の時間を通して様々な発想や考え方について学んでいく。	・わかりやすい授業を目指し、生徒の能力を発揮できるよう努める。 ・毎授業、取り組む内容ごとに作業効率を意識させるため、片付け時の注意点など確認し、共通理解を心がける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・1,2年次に学習した内容を繰り返し復習させる。 ・知識は、授業の中で復習をすることで知識の定着を図る。	・できるだけ鑑賞の時間を設けるようにする。他人の作品を観ることで、さまざまな表現の仕方があることを学ぶ。 ・ただ作るのではなく工夫させる。	・作業が滞っている生徒には、どの部分で迷っているのかを声かけによって把握し、選択肢を残して具体的な案を提示する。 ・机間巡視で質問に答えるなど生徒の様子をよく観察する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・これからも3年間で身につけた技能を発揮できる題材を選んでいきたい。 ・自分が得意な技法や表現方法に気付かせられるようにする。	・できるだけ鑑賞の時間を設けるようにし、さまざまな表現の仕方があることを学ぶ。 ・授業内での声かけを増やし、生徒が豊かな発想をできるようにサポートする。 ・西洋だけでなく日本の美術についても調べさせる。	・反省の記録を通して、自己実現や問題解決能力を身につけさせたい。 ・さまざまな制作を通して自分は何が得意または苦手なのか知り、自己理解につなげていく。

